まちづくり・未来ワークショップ 一第4回のまとめ一

平成23年3月

光市政策企画部

1. まちづくり・未来ワークショップ第4回の概要

<テーマ>

テーマ別のまち育て作戦会議

【グループワークの内容】

まち育て作戦会議

- ・第3回で設定したテーマ別に、各自で持ち寄った資料、市からの提供資料を確認
- ・テーマに沿った意見交換
- ・成果品のとりまとめ

	まち育て作戦会議のテーマ
1班 住環境づくり	地域のクリーンアップ活動マップづくり
2班 防災まちづくり	地域防災活動ハザードマップづくり (地域の防災活動の状況、高齢者の状況など)
3班 緑のまちづくり	緑の仲間づくり・活動マップづくり
4班 景観まちづくり	景観阻害要因マップづくり 景観まちづくり取組集づくり

【日時】

・平成23年2月19日(土) 午後1時から午後4時まで

【場所】

・光市総合福祉センター「あいぱーく光」

【グループ分け】

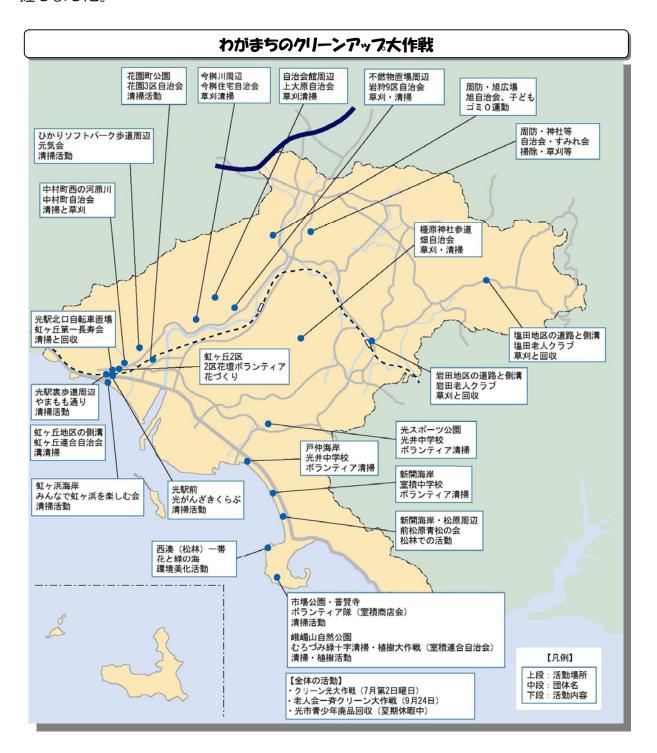
- ・1班:「環境にやさしく、快適に過ごせる光市」【住環境づくり】
- ・2班:「災害に強く、安心して暮らせる光市」【防災まちづくり】
- ・3班:「緑に恵まれ、心地よく感じる光市」【緑のまちづくり】
- ・4班:「心和む風景に囲まれ、誇りと愛着がもてる光市」【景観まちづくり】

2. まちづくり・未来ワークショップ第4回の結果

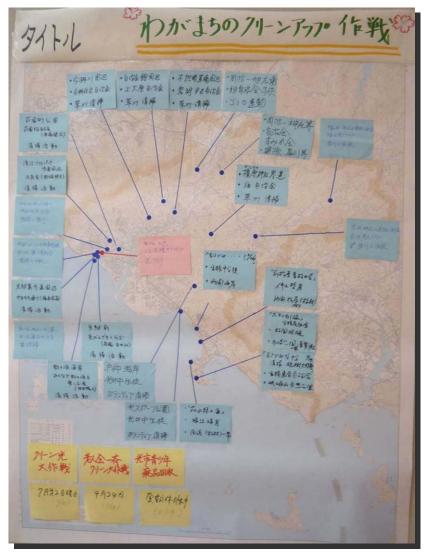
まちづくり・未来ワークショップ 一第4回のまとめ一

1班:「環境にやさしく、快適に過ごせる光市」【住環境づくり】

地域で行われているクリーンアップ活動をピックアップし、市全体の取組状況を把握しました。



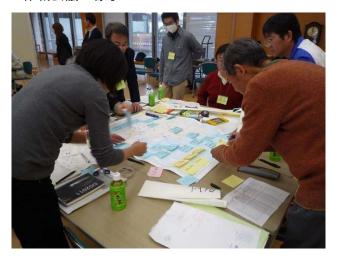
わがまちのクリーンアップ大作戦



発表の様子



作戦会議の様子



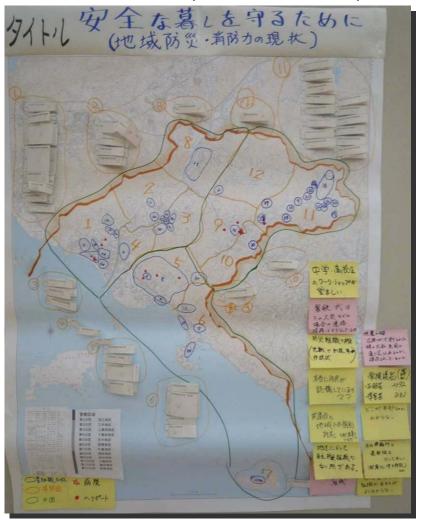


2班:「災害に強く、安心して暮らせる光市」【防災まちづくり】

市内の自主防災組織をピックアップし、活動マップを作成することで、自主防災の 取組の課題を考えました。



安全な暮らしを守るために(地域防災・消防力の現状)



発表の様子



作戦会議の様子





3班:「緑に恵まれ、心地よく感じる光市」【緑のまちづくり】

緑のまちづくり活動をピックアップし、市内の様々な活動が連携できる仲間づくり 方策を考えました。



人と自然のふれあい仲間づくり

事業者とのタイアップ

- ・技術者の紹介
- ・苗木、資材
- ・レンタル紹介 土耕機等
- ・共同購入
- ・道具・機具の斡旋、貸し 出し

緑の仲間 支援センター

教育・学習

(例)

活動援助

- ・技能講習
- ・環境学習の応援 家庭・学校
- ・体験学習の紹介(植樹・農耕・農

業)野菜づくり

市民·住民

- ・いっしょに活動
- ・助け合い
- ・イベント
- ・ネットワークづくり
- ・交流
- ・情報発信
- ・ホームページ
- ・グループ紹介
- ・企画呼びかけ、勧誘
- ・健康づくりの仲間づ くり(森林浴、田園 浴、高原欲、河畔欲、 海水浴)

・給水インフラ 水遣り

行政とのタイアップ

・施策との協働

- ・印刷 コピー等 PC
- ・助成制度とのマッチング

人と自然のふれあい仲間づくり



緑のまちづくり活動マップ



発表の様子



作戦会議の様子





4班:「心和む風景に囲まれ、誇りと愛着がもてる光市」【景観まちづくり】

良好な景観を阻害している要因をピックアップし、解決方策を考えました。



光かがやく景観まちづくりを目指して

市民一人ひとりで・・・

- ・環境景観まちづくり 関心をもつ
- ・問題を発信し、問題を受信する
- ・当事者意識をもつ
- ・ちょっと考えてみる、工夫してみる、ちょっと続けてみる(そうすると長続きする)
- ・ゴミ設置まわりの美化

家々で資料をよく読んで仕分けする

- ・内と外の中間(半公共空間)の美化
- ・庭先・玄関先の生活美観(ご近所でお互いに生活美観を考え取り組み、市全域への拡がりが期待できる)
- ・外向きの目をもって家のまわりやごみ出しを、気をつけてみる

地域で・・・

- ・地域のみんなでいっしょにやってみる
- ・地下のもん(人)とよそのもん(人)がいっしょに取り組む
- ・" 楽しく " をキーワードに取り組む

取組に参加するきっかけづくり

市道、農道沿線の維持(草刈等、個人、自治会等で定期的に管理しているが近い将来には困難) 竹林の拡大に対して、「竹の子狩りツアー」の企画

荒れた休耕田の活用(市民農園などへの活用、PR すれば家庭菜園希望者は喜ぶのではないか) 休耕地対策として、一人で農地を借りて、野菜作り(パイロットショップの生産者登録もする) ゴミ設置場所について、自治会ごと研究する

景観と文化財を一体のものとして地域で継承していく

光市が・・・

・里山の維持管理

根底に限界集落問題があり、高齢化した地域住民だけでは問題解決は困難

・居住者不在の廃屋点在

市街化調整区域では制約が多く、転入は困難

市街化調整区域の見直し

廃屋・廃林野を調査し、地域と話し合いをもってみる

廃屋への入居希望者情報の把握・情報交換

・ゴミ設置場所

収集車の出入りの問題もあるが環境美化にアドバイスを

・ボランティア活動(核となる組織があれば応募者は居るのではないか)

ボランティア受入れニーズを集約できる拠点をつくる(全市的な)

草刈、道づくりの応援

受入ニーズに従い、光市内どこでも (一人でも、グループでも)応援する

草刈、道づくり等、応援するボランティアグループの創設呼びかけ

問題とボランティアのマッチング(コーディネート・コーディネーター)

楽しんでやれそうな取組みをする

・市民といっしょに行動しながら考えた景観計画の策定

景観まちづくり学習機会の提供

・潜在的な関心者の掘り起こし

常に情報発信すること

情報発信の工夫

・海商通りの個人住宅

電線地中化及び沿線建物の仕様の自主規制が必要ではないか

・冬眠している観光資源の発掘

姉妹都市との提携(観光資源開発の力)(例えば、中国峨嵋市)

景観阻害要因マップ



作戦会議の様子





光かがやく景観まちづくりを目指して



発表の様子

